

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 10 月 22 日現在

機関番号：28002

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2014

課題番号：24593456

研究課題名(和文) 島しょ看護学教育内容の体系化に関する研究

研究課題名(英文) Research on a Systematized Model of Island Nursing Educational Content

研究代表者

野口 美和子 (NOGUCHI, MIWAKO)

沖縄県立看護大学・その他の研究科・名誉教授

研究者番号：10070682

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：島嶼看護学教育に必要な教育内容項目および教育内容を確定した。教育内容項目として、島しょ論、島嶼地区の健康課題ならびに課題解決の方法、島しょ地区における看護上の課題ならびに支援方法、島しょ地域文化看護論、離島の保健医療・診療所の発展可能性、島しょ看護論、多職種連携・協働活動、遠隔通信機器などの活用、島しょ看護職論、島しょ看護研究の発展の方向、島しょ看護管理、島しょ看護教育、国際島しょ看護の13項目があった。それらの教育内容項目および項目に含まれる教育内容を、3つの看護教育レベル(学士課程、博士前期課程、博士後期課程)の教育目標に照らして配置し、島しょ看護学教育を体系化した。

研究成果の概要(英文)：We determined the educational topics and associated content required for island nursing education. A total of thirteen topics were identified: island theory, health problems in island areas and associated problem-solving methods, challenges for nursing in island areas and associated methods of support, nursing theory for island communities and cultures, developmental potential for island-based health care and clinics, island nursing theory, multidisciplinary collaboration and cooperative activities, active use of telecommunications equipment and other new technologies, island nursing employment theory, directions for the development of island nursing-related research, island nursing administration, island nursing education, and international island nursing. We then contextualized these topics and their respective educational content in terms of the educational goals of nursing education at three separate levels and developed a systematized model of island nursing education.

研究分野：地域看護学

キーワード：島嶼 看護教育 教育プログラム

1. 研究開始当初の背景

島しょの看護を含むルーラルナーシングに関する実践や研究は、国外では米国やオーストラリア等にみられ、地域特性を活かした看護活動や緊急医療処置の必要性等を報告している。島しょ看護は、ルーラルナーシングの一部である。石垣は、公表された島しょ看護に関する論文を用いてメタ分析を行い、島しょ看護活動の基盤となる人材資質として、“地域のスペシャリスト”、“看護のジェネラリスト”、“固定観念を排除した役割意識”とした。そして、島しょ看護は、プライマルヘルスケアの実践ができる、協働連携により継続看護ができる、住民と島内外の専門職との協働連携により看護職がエンパワーされる、看護職の力量発揮により島で看取りができるなど、島しょの有利性を活かした看護実践の報告がみられる。

一方、島しょ看護の教育については、島しょを多く有している県(長崎県、沖縄県、鹿児島県等)で島しょをフィールドとして教育が試みられている。長崎県立大学の「統合実習；しまの健康」や、沖縄県立看護大学の「島しょ保健看護」の教育目的、教育目標、教育内容が紹介され、島しょは、学生の学びの場として意義があることが報告されている。野口は、島しょ看護教育への提言として、“地域ケア機能を中心とした臨地実習の創造”、“地域ケアの推進による看護教育の変革”、を提示してきた。また、大学院での実践的看護研究指導を通して、島しょの強みに基盤を置き、それを活かすための柔軟な発想での独自の取組による看護実践を集め、実践の分析・統合することで島しょ看護学の確立に貢献できると考えている。

本研究の先行研究である「看護学士課程における島しょ看護教育の効果と課題に関する研究」^{文献)}では、島しょ看護教育の影

響・効果として、学生・教員・現地の専門職にとって“島しょでの理解の深まり”、“島しょ看護の魅力と理解”、“学習力・教育力の向上”、“看護実践力・地域への貢献”があったことを明らかにした。しかし、“島しょ看護学の確立”がなされていない現状では、島しょでの看護実践から教育内容を整理する必要があると考えられた。そして、この課題解決には、学士課程だけでなく、博士前期課程と博士後期課程を含め、島しょ看護学教育内容を体系化する必要がある。

我が国における島しょ看護を含めたルーラルナーシングの実践や研究は散在しているが、その教育内容は体系化されていない。そのため、島しょ看護の教育・研究・実践の先駆者たちの報告書などを基に、島しょ看護の実践と研究に必要な教育内容を探求確定し、それを体系化し、看護学基礎教育としての学士課程、看護学の高度実践者育成としての博士前期課程、そして、看護学の教育者・研究者を育成する博士後期課程のそれぞれの教育プログラム立案に資することは意義がある。

2. 研究の目的

島しょ看護学教育の推進・普及に向けて、島しょ看護の実践と研究に必要な教育内容を探求確定し、看護基礎教育としての学士課程、看護学の高度実践者育成としての博士前期課程、そして、看護学の教育者・研究者を育成する博士後期課程のそれぞれの教育目標に照らして振り分け体系化し、島しょ看護学の教育プログラム立案に資することである。

3. 研究の方法

研究方法は以下の手順で行った。

1) 教育内容の探求確定のための文献選定

島しょ看護の実践と研究に必要な教育内

容を採求確定するために、文献を選定した。文献は、医学中央雑誌で「島しょ看護」のキーワードで検索後、日本ルーラルナースィング学会誌、島しょ看護教育を实践している大学紀要および報告書、研究チームの研究論文および関連文献から選定した。選定した文献は105件であった。文献を精読し、島しょ看護に必要な知識、技術に関する記述部分をリストアップしたものを、島しょ看護教育内容を示唆するものとして、選定した。

2) 教育内容の抽出・分類の命名

教育内容を示唆するものを抽出・分類し、島しょ看護の教育内容として命名した。さらに、島しょ看護の教育内容の類似したものをあつめ、教育内容項目として命名した。

3) 教育内容の枠組みの設定

島しょ看護学の教育内容と項目について3つのレベル(学士課程・博士前期課程・博士後期課程)の教育目標を考慮して振り分け、教育内容の枠組みを仮設し「島しょ看護学の教育内容の枠組み(案)」を作成した。枠組み(案)を日本ルーラルナースィング学会で提示し、会員から意見を聴取した。意見聴取は、「枠組みについての意見はないか?」、「不足している教育内容項目や教育内容は何か?」、「看護学教育の3つのレベルの教育目標に照らして、教育内容を、学士課程・博士前期課程・博士後期課程のどのレベルでの教育が適切か?」であった。教育のレベルの振り分けの適切性については、シールでプロットを依頼した。

4) 島しょ看護教育の教育内容の体系(案)の検討

3をもとに、島しょ看護学の教育内容の枠組みをもとに島しょ看護教育の教育内容の体系(案)を検討した。島しょ看護専門家(離島で病院・診療所看護師、村役場の保健師として実務経験のある9名)からの意見を聴取した。事前に資料を送付し、意

見をまとめ討議に参加できるようにした。会議を開催し、島しょ看護教育の教育内容の体系(案)に対する資料を読んだの感想や意見を述べてもらった。

5) 島しょ看護教育の教育内容の体系の決定

4を踏まえ、島しょ看護教育の教育内容の体系の整理と検討により、島しょ看護教育の教育内容の体系を決定した。

文中では、島しょ看護の教育内容項目を『 』、島しょ看護の教育内容を《 》、リストアップした文献の内容を で示す。

4. 研究成果

島嶼看護学教育に必要な教育内容項目および教育内容を確定した。教育内容項目として、島しょ論、島嶼地区の健康課題ならびに課題解決の方法、島しょ地区における看護上の課題ならびに支援方法、島しょ地域文化看護論、離島の保健医療・診療所の発展可能性、島しょ看護論、多職種連携・協働活動、遠隔通信機器などの活用、島しょ看護職論、島しょ看護研究の発展の方向、島しょ看護管理、島しょ看護教育、国際島しょ看護の13項目があった。それらの教育内容項目および項目に含まれる教育内容を、3つの看護教育レベル(学士課程、博士前期課程、博士後期課程)の教育目標に照らして配置し、島しょ看護学教育を体系化した。

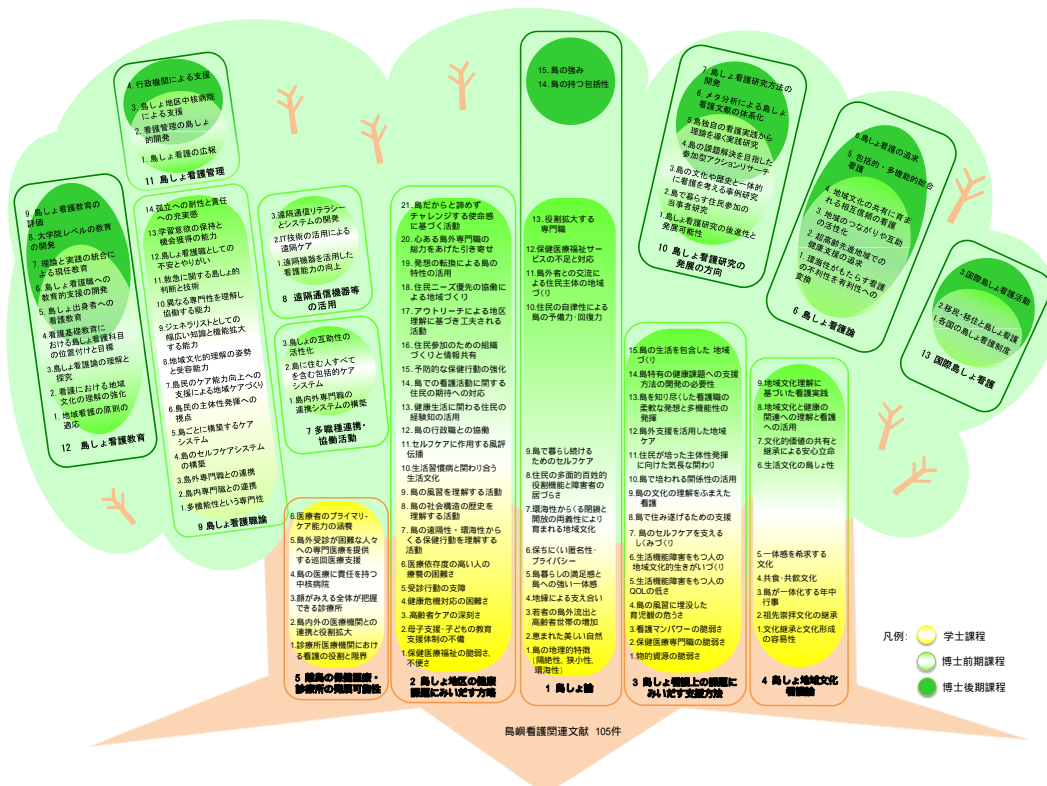


図1 島しょ看護教育の教育内容の体系

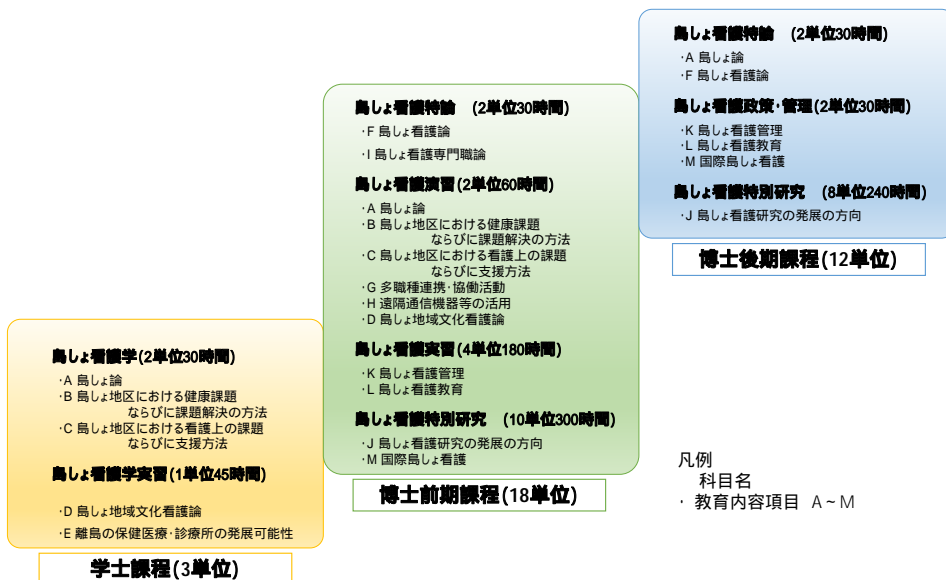


図2 教育課程ごとの科目配置

5. 主な発表論文等

【雑誌論文】計1件

野口美和子, 大湾明美, 石垣和子, 山崎不二

子, 北村久美子, 春山早苗: 島しょ看護学の教育内容の体系化: 日本ルーラルナースィング学会誌(投稿中)
【学会発表】計2件

野口美和子,大湾明美,北村久美子,春山早苗,山崎不二子,石垣和子: 島しょ看護学教育内容の体系化に関する研究,日本ルーラルナースィング学会第 8 回学術集会,2013 年 10 月(石川)

野口美和子,大湾明美,石垣和子,山崎不二子,北村久美子,春山早苗: 島しょ看護学の教育内容の体系化,日本ルーラルナースィング学会第 9 回学術集会,2014,10 月(岩手)

6 . 研究組織

(1)研究代表者

野口美和子 (NOGUCHI MIWAKO)

沖縄県立看護大学・大学院・保健看護研究科・名誉教授

研究者番号 : 10070682

(2)研究分担者

大湾明美 (OHWAN AKEMI)

沖縄県立看護大学・大学院・保健看護研究科・教授

研究者番号 : 80185404

石垣和子 (ISHIGAKI KAZUKO)

石川県立看護大学・看護学部・教授

研究者番号 : 80073089

北村久美子 (KITAMURA KUMIKO)

旭川医科大学・医学部・名誉教授

研究者番号 : 40292130

山崎不二子 (YAMAZAKI FUZIKO)

福岡女学院看護大学・看護学部・教授

研究者番号 : 20326482

春山早苗 (HARUYAMA SANAE)

自治医科大学・看護学部・教授

研究者番号 : 00269325